



# はじめて

思っていたよりも自由なかんじでした。

1年 山下 潤都



高校生になると先輩後輩関係が厳しくなるのかと思っていましたが、全然そんなことはなく、先輩から気軽に声をかけてもらったりしています。学習はまだ中学校の復習が中心ですが、これから難しくなっていくのかと... 将来は大学に進学して公認会計士を目指そうと思っています。

## 令和5年度新任教職員



- ① 荒瀬 勝彦 教頭 (あらせ かつひこ 商業 八雲高校より)  
「十勝の雄大な自然の中で仕事に精をだせることに、この上ない喜びを感じています。」
- ② 石井 耕太郎 教諭 (いしい こうたろう 地歴公民 新卒)  
「生徒の皆さんと過ごすこれからの日々をととても楽しみにしています。自分らしく精一杯頑張ります。」
- ③ 伊藤 祐加奈 教諭 (いとう ゆかな 商業・情報 1年B組担任 別海高校より)  
「生徒の皆さんと一緒に新しいことにどんどん挑戦します。」
- ④ 藤田 拓也 教諭 (ふじた たくや 理科 1学年主任A組担任 釧路明輝高校より)  
「少しでも早くお役に立てるように頑張ります。」
- ⑤ 吉田 茉央 教諭 (よしだ まお 国語 池田町より)  
「精一杯頑張ります。」



「トリとめもなく」校長 渋谷 圭  
校舎のある里見が丘では様々な鳥が見られます。野球の熱狂が日本中を席卷した3月は、旅立ちの渡り鳥が空にVの字を描き、本校の野球場には丹頂鶴の審判団が現れました。そして4月は本校周囲に居を構える、なじみの鳥たちが子育てを始めます。

鳥の子育てといえば、卵からかえった雛が親鳥の運んでくる餌を待って口を開けている光景を思い浮かべます。先日、インターネットでの調べごと中に奇妙な画像に出くわしました。巣立って間もない幼鳥が、地面を這う何かの幼虫を追いかけて、追いついては虫に向かってただ口を開ける、ということを繰り返しているのです。幼鳥ゆえ、餌で遊んでいるのかもしれませんが、ここからは勝手な想像です。幼鳥は腹をすかしているものの、雛の頃に親が餌を運んできた習慣から抜け出せず、虫の方から口に飛び込んでくるものと思っていたとしたらどうでしょう。

もしこの鳥の親鳥がそんな我が子を見つけたらどうするでしょう。虫を捕まえて口に放り込んであげるか、それでは我が子が狩りを覚える機会にならないから放っておくか。であれば自分で狩りをするというのをどうやって教えるか。自分がかわえて食べる様を見せてやるか。

自分の意思や判断によって主体的に行動するという事は大切なことです。しかし、それがうまくいっていないときに、どのように関わっていけば本人の、もともと持っている能力を引き出すことができるのか。

私たちには言葉という伝達手段はありますが、言葉がいつでも有効に作用するとは限りません。教え込んだとしても、そのことが意味をともなって理解されたかどうか。

人の成長を支える組織たりえるよう、教職員一同、様々な場面で生徒の能力を引き出す取組をしてみたいです。





新入生歓迎会



筋が伸びる思いでした。

説明、実演、お笑い、4年ぶりに全高生徒が一同に介して行いました。新入生の立派な謝辞には先輩や教員も背

委員会活動



新たなアイデアを練っています。

コロナ禍の高校生活を支えた各種の委員会活動。図書委員会が図書室運営の

1年生 人間関係スキルアップトレーニング



卓球部 全道大会進出決定



4月22日(土)、帯広市のよつばアリーナ十勝で行われた国体卓球十勝地区予選会の男子シングルスで、佐藤蓮(3年)が3位入賞、坂口 宏紀(3年)ベスト16、小倉瑠偉(2年)ベスト16。6月に旭川市で行われる全道大会に出場します。

「個別最適」を深める高塾連携

本校には学校と公設民営塾が連携して個々の生徒の多様な学習ニーズに応える環境があります。今年度からリクルート社が提供するオンライン学習サービス「スタディサプリ(スタサプ)」を全生徒が使用できるようになりました。わからないことをひとつひとつ解決、希望進路実現のために学習の進め方を自己管理、より高い目標を掲げている生徒には、塾の時間数の調整など更なる支援充実をはかります。



アショロノコトラじお SEASON2

昨年秋から帯広市のローカルFM局 FM WING の番組『アショロノコトラじお』で、足寄町役場経済課商工観光振興室の神本様のご指導で、本校生徒がパーソナリティを務めています。卒業した初代の後を継いだ小嶋 日向、原田 侑樹の両2年生が初回の放送を無事終わりました。



5月の予定

教育実習 交通安全講話 高体連集約大会 実用英語技能検定